
社会保障こぼれ話

北欧諸国の社会保障費

デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、およびスウェーデンの北欧5カ国では、1975年の社会保障給付費は、対前年度で、ノルウェー（17%上昇）を除き、他の各国はいずれも20%以上（デンマークとスウェーデンが21%上昇）増えていた。フィンランドとアイスランドはそれぞれ30%と42%の増加を記録している。社会保障費を国民1人当りで見えた状況も、上記の期間にほぼ同一の増加を示していた。

北欧5カ国の社会保障費を7つに大別した給付部門で見れば、アイスランドを除き、他の4カ国は高齢者に対する各種の給付に、約40%もしくはそれ以上を充当していた。この部分が最も大きいのはノルウェーの47.2%で、フィンランドの46.2%、デンマークの43.7%がこれに続きいていた。この比率はスウェーデンでは39.2%で、アイスランドでは29.7%であった。給付部門の中で次に大きな部分を占めるのは保健・医療の部門で、いずれの国も30%以上をこの部門に当てていた。この部門が最も大きいのはアイスランドの49.6%で、ノルウェーが39.8%、スウェーデンが39.6%、デンマークが32.9%、フィンランドが32.1%であった。いずれにしても、5カ国では、これら両給付部門の合計は社会保障給付費の77%以上を占めており、残りが労働災害、失業、家族福祉、社会扶助、およびその他に支出されていた。ちなみに、社会保険と公的サービスの制度がかなり整備されているので、社会扶助の果す役割はきわめて小さい。

社会保障費の対国内総生産比は、デンマークの27%が最高で、他の国々はスウェーデンが25%、フィンランドが21%、ノルウェーが20%、アイスランドが14%であった。財源では、1975年の財源は前年度より増加し、増加率はアイスランドが40%、フィンランドが30%、デンマークとスウェーデンが21%、ノルウェーが17%であった。

（平石長久 社会保障研究所）

編集後記

暖冬異変で、今年の冬はしのぎ易かった。しかし、スキー場は雪が少なく、スキー客を当てにした色いろな業者は、客が来ないので、困っていた。雪が少ないのは、あちこちのダム貯水量に影響するので、夏の水が案じられる。東京では、ほとんど雪も降らなかったし、厳寒の時期にも、連日春の陽気が続いていた。暖冬のせい、川土手の草原に土筆が頭を出したのも早かったし、梅も早く開いた。季節外れの陽気に誘われて、桜まで早々と綻びるのが現われた。何もかも少しずつ早目に感じられたが、しかし、例年ならば、2月頃に真白い花の開くこぶしは、3月中頃にやっと花がふくらんできた。暖冬でも、こぶしは少し遅かったようだ。

（平石）

海外社会保障情報 No. 45

昭和54年3月26日発行

編集兼発行人 社会保障研究所

〒100 東京都千代田区霞が関3-3-4

電話 03(580)2511

製作所 和光企画出版株式会社03(564)0338
